

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	大阪府立大学	整理番号	Q03
プログラム名称	システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム		
プログラム責任者	高橋 哲也	プログラムコーディネーター	藤村 紀文

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、大阪府立大学と大阪市立大学の公立2大学による産業界に主軸を置くリーダーの養成に特化したプログラムとしてユニークなものであり、ルーブリックを基本とする定評評価のシステムを構築するなど他大学には見られない特色を持つ優れたカリキュラムが構築されており、履修生の満足度も高く、評価できる。当初は履修生の過度な負担が課題であったが、履修生との議論を通してカリキュラムの再編を行うなど、中間評価時点と比べ大幅に改善された。企業幹部経験者が常駐してコースワークや海外研修・研究室ローテーション・企業インターンシップ等の実務的研修及びきめ細かいメンタリングに深く関与するなど、計画を超えた取組が行われ、俯瞰力があり産業界を牽引する力を持った博士人材を輩出していることは、高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、修了者のほとんどが俯瞰力や独創力、課題発見・解決力、プレゼンテーション能力、語学力、ディスカッション能力等が向上したと感じており、令和元(2019)年11月時点の修了者19名のうち16名が企業に、2名が産業界とのつながりを重視する公的研究機関に就職しており、評価できる。また、修了者とのネットワーク構築や活躍状況把握のための同窓会組織も設立し、修了者の社会での活躍状況を長期にわたってフォローアップする仕組みができてきている点も、評価できる。ただし、修了者が社会においてリーダーとして伸びていくかどうかについては、今後のフォローが必要である。

事業の定着・発展については、既に本プログラムの基幹カリキュラムが両大学の大学院共通教育科目に組み入れられるなど大学院教育改革につながっており、さらに本プログラムの成果が両大学統合後の教育システム構築に重要な役割を果たしつつあり、評価できる。また、平成29(2017)年度より募集定員を当初の半分の10名としており、支援期間終了後は学生の経済的支援についての懸念はあるが、特徴的な演習・講義、履修生の評価が高い研究室ローテーションや自主共同研究等を継続できるよう、人員体制の整備、研究費の補助や海外留学支援が計画されている点は、評価できる。本プログラムが両大学の統合の核として発展的に活用されることを期待する。